

1. ANM176®のすすめ

高齢になると「もの忘れ」は誰にでも起こりますが、「もの忘れ」が目に見えて悪化する場合は、もの忘れ外来など認知症専門医に診てもらうことが重要です。その診察で、軽度認知障害（MCI）があると診断されることがあります。MCIの約30%は認知症に進行すると言われています。

認知症の多くは70才を過ぎてから診断されていますが、その診断の20～30年前から体内には兆候が見られると言われています。認知症の有効な治療方法は開発されていないため、50代から予防に心がけることが重要です。認知症の有病率は高齢ほど高いため、高齢化社会では認知症が増加します。ライフスタイルや環境の変化など様々な要因が認知症の発症に関係すると言われています。この20～30年間、ライフスタイルや環境が改善した欧米の先進国では、認知症の年齢毎の年齢調整有病率は減少しています。しかし、日本においては、ライフスタイルや環境が悪化しているはずはないにもかかわらず、認知症の年齢調整有病率は著しく増加しています。この背景に食事の変化も考えられます。

2025年には高齢者の5人に1人に当たる730万人が認知症になると予測されていますが、最も多いのはアルツハイマー病で、認知症全体の70%弱を占めます。アルツハイマー病の原因たんぱく質とされているアミロイドβたんぱく質（以下、Aβ）には脳の神経作用を障害するAβ神経毒性があります。ANM176®は、ヨーロッパではハーブとして食品に利用されているガーデンアンゼリカ根の抽出物に米ぬか由来のフェルラ酸を配合した食用製剤です。ANM176®は、Aβ神経毒性を最も効率よく抑制できるようにAβ神経毒性抑制成分を一定量に規格化し、アルツハイマー病の改善や進行抑制に役立つ可能性が臨床試験で確認されています。この臨床試験で最後の検査であった9ヵ月後が開始時に比較して認知機能が改善していた割合は、軽度であれば半数以上、重度であっても約3割でした。【下記文献】

・中村 重信, 佐々木 健 他 [Ferulic acid(フェルラ酸)と garden angelica(ガーデンアンゼリカ)根抽出物製剤 ANM176®がアルツハイマー病患者の認知機能に及ぼす影響] *Geriatr. Med.* (2008) 46:1511-9

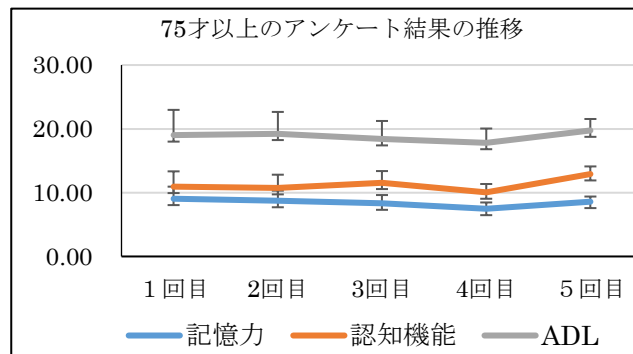
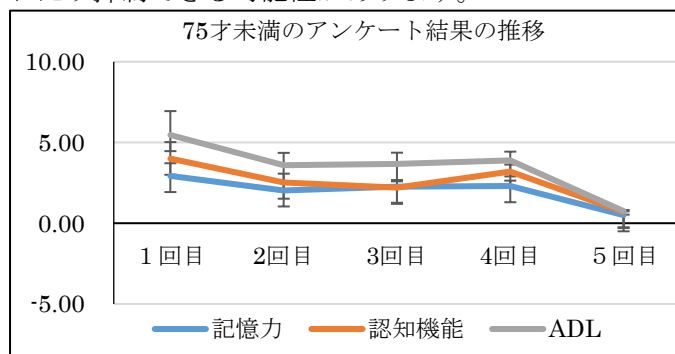
また、この試験でMCIレベルの11名中の9名は、試験開始時に比較して9ヵ月後の方が認知機能が改善していました。このことから、ANM176®は認知症の予防にも役立つ可能性が考えられます。

お米や小麦粉を主食に使用している日本人の場合は、大部分のフェルラ酸を米や小麦のヌカ部分から摂取しており、ヌカ部分を完全に取除いた白米や精製小麦粉を使用する現代の食事では、高齢者に必要と考えられる量のフェルラ酸が不足している可能性があります。また、一年中、季節物の野菜を食べられる現代では、昔と摂取する成分が異なっていることがあります。季節物には少々苦みがあったり香りが強かったりしますが、季節感を彩り、健康にも良いものとして親しまれていました。現代では、品種改良やハウス栽培など栽培方法の工夫によって、以前と同じものを食べていても成分が同じとは限りません。

2. ANM176利用者アフターサービス

ANM176®を使用した全員に同じ効果がある訳ではありません。また、臨床試験では偽薬によるプラセボ効果が6ヵ月後までであるため、6ヵ月以上使用し続けないと認知症に対する真の効果は分かりません。そこで、長期にわたる使用を奨励する「ANM176利用者アフターサービス」（以下では、本サービス）が2019年の9月から始まっています。本サービスのアンケートによる記憶力、認知機能、ADL（日常生活動作）の数値の推移から、ご自身に対するANM176®の効果を無料で確認することができます。

約2年間にわたる本サービスのアンケート結果の平均値を75才未満と75才以上に分けてグラフにしたのが下図です。グラフの値は低いほど正常に近いことを示しています。予防を目的にしている人が多い75才未満では、徐々に改善し、アルツハイマー病の人が多い75才以上では、悪化の進行が緩やかな傾向が読み取れます。ANM176®は高齢による認知機能の低下を抑制し、アルツハイマー病の進行を長期間にわたり抑制できる可能性があります。



本サービスの詳しい内容は、下記先にお問い合わせください。